



農林水産省 令和3年度鳥獣対策優良活動表彰発表資料

地域は俺たちが守る

～防災意識を基盤とした有害鳥獣対策について～



富里市有害鳥獣被害防止対策協議会【千葉県】

『全国屈指すいかの里』 農業のまち富里



◎千葉県富里市の概要

富里市は、千葉県の北総台地のほぼ中央に位置し、都心から約50キロ～60キロメートル圏、成田空港からは、西に約4キロメートルに位置しています。

北総台地の豊かな土壌を活かした農業が基幹産業であり、代表格のすいかをはじめ、収穫量全国1位にも輝いたことのあるにんじん、トマト、とうもろこし、大根、落花生、さといもなどの栽培が盛んで、首都圏の台所を支えています。

毎年、1万人以上が参加する、『給スイカ所』で有名なスイカロードレース大会や全国初となる『すいか条例』を制定するなど、『全国屈指すいかの里』として知られています。



富里市鳥獣害対策の経過

- 平成29年8月

富里市有害鳥獣被害防止対策協議会設立

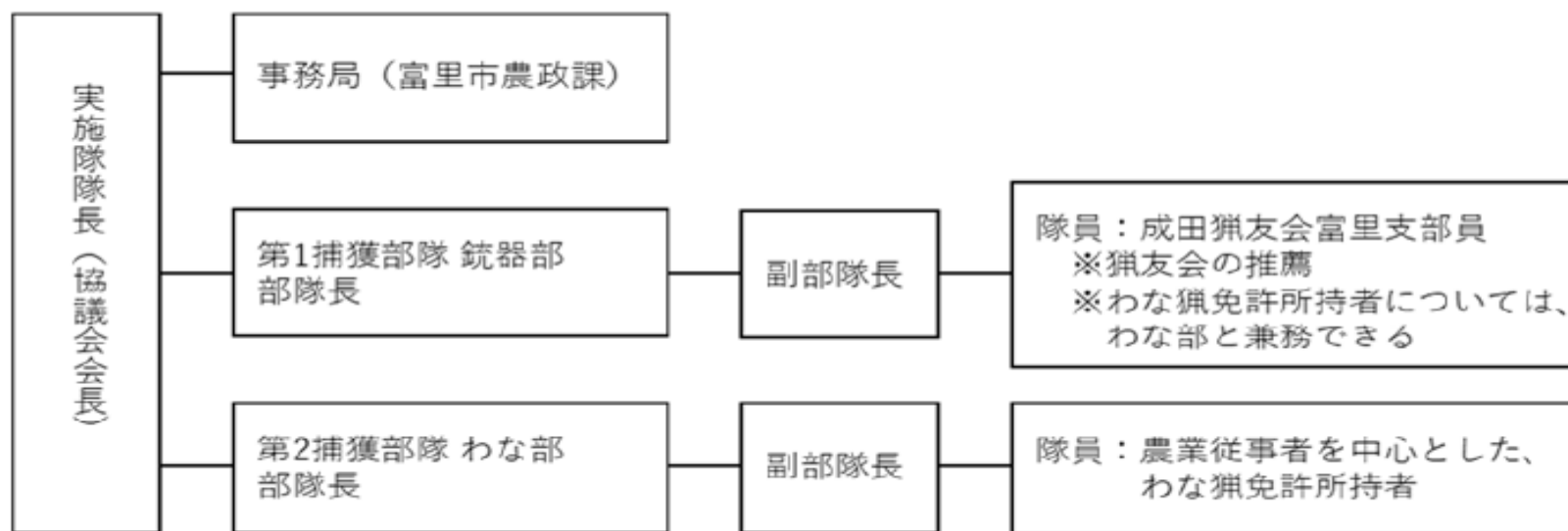
- 平成30年度

鳥獣被害防止総合対策交付金事業開始

- 平成31年4月1日

富里市鳥獣被害対策実施隊設置

富里市鳥獣被害対策実施隊の組織図等



第1部隊の主な活動項目

- ・鳥類捕獲及び追払い
- ・大型獣止め刺し
- ・小型獣止め刺し

第2部隊の主な活動項目

- ・小型獣・大型獣捕獲活動(殺処分含む)
- ・出没、被害状況の調査、報告
- ・罠設置技術指導
- ・集落内での共同活動指揮
- ・集落内の連絡調整
- ・生息環境管理(草刈等)
- ・電気柵設置指導等

実施隊隊員構成等

●実施隊隊長1名

●第1捕獲部隊銃器部 10名

●第2捕獲部隊わな部 45名

隊員計56名

年齢構成

●20代:3名 30代:11名 40代:13名

50代:9名 60代:15名 70代:5名

●隊員の内農業従事者:49名

基本方針①

●対策の基本方針

※農業従事者が地域の鳥獣対策のキーマンであると位置づけ、猟友会の協力を得つつ農業従事者を中心とした体制づくり『自分の圃場は自分で守る』という基本方針を柱として、実施隊の組織づくりに着手。

●狩猟免許取得促進事業の活用

平成29年度より狩猟免許取得経費に対する助成を開始。また、受験者に対し、市独自の試験対策講習を実施している。※模擬試験【市作成】の実施や実地講習など。

●捕獲従事者確保について

JA富里市と連携し、農業者団体へ啓発活動を行い狩猟免許取得希望者の募集を行う。また、各農業者団体の会合に出向き獣害対策講習を行い意識改革を進める。

●隊員の所属する主な農業者団体等

JA富里市西瓜部会【役員等】、富里市農業士会、富里市農業研究会
TNネットワーク【若手の農業団体】、JA富里市青年部 他

基本方針②

●防災意識の徹底

最悪な事態を想定して、準備【対策】を進める。事が起きてからでは遅いという意識をもつことを前提とした組織づくりを心掛ける。
※スピード感をもつこと

●一般的な例【行政主導】

農業者等からの被害相談・問合せ



行政・JA



猟友会等へ依頼・委託

●隊員主導（スピード感重視）

農業者等からの被害相談・問合せ



実施隊員＝農業者等＝地域の代表

※捕獲・調査・相談・対策指導等

※活動報告

※活動指示

行政・協議会・JA

● 自助・公助・共助の関係

自助・共助

実施隊員 = 農業従事者等

●ポイント

隊員が主に農業従事者であり、地域・地区の代表。自身で守り(自助)、地域で協力して守る(共助)。隊員についても、各地域の主要な人物を任命しているため、地域・地区での協力が得やすい。



公助

市・協議会・JAなどが協力して、公的援助を行う。活動に伴う資器材の整備、活動支援等。

消防団員兼実施隊員による高い防災意識【十倉二区他】

●十倉二区地区の隊員数：14名【内わな部12名】

当該地区は、市内でも鳥獣被害が深刻な地区であり、在住隊員は、ほぼ全員が農業に関わる仕事に従事しており、消防団に在籍している大きな特徴を持っている。また、他地区においても、消防団に在籍又は、消防団OBの隊員が多数在籍している。

◎ポイント

『地域を自分たちで守る』という防災意識が強く、被害が出る前から予防に努め、被害が出たら地域一丸となって対処するという防災の考え方が根底にある。火事の際の素早い情報共有・伝達が習慣になっており、隊員間でLINEグループを作成し、各自が確認した痕跡の画像や被害場所の情報を共有し、対策にあたっている。

●独自の取組

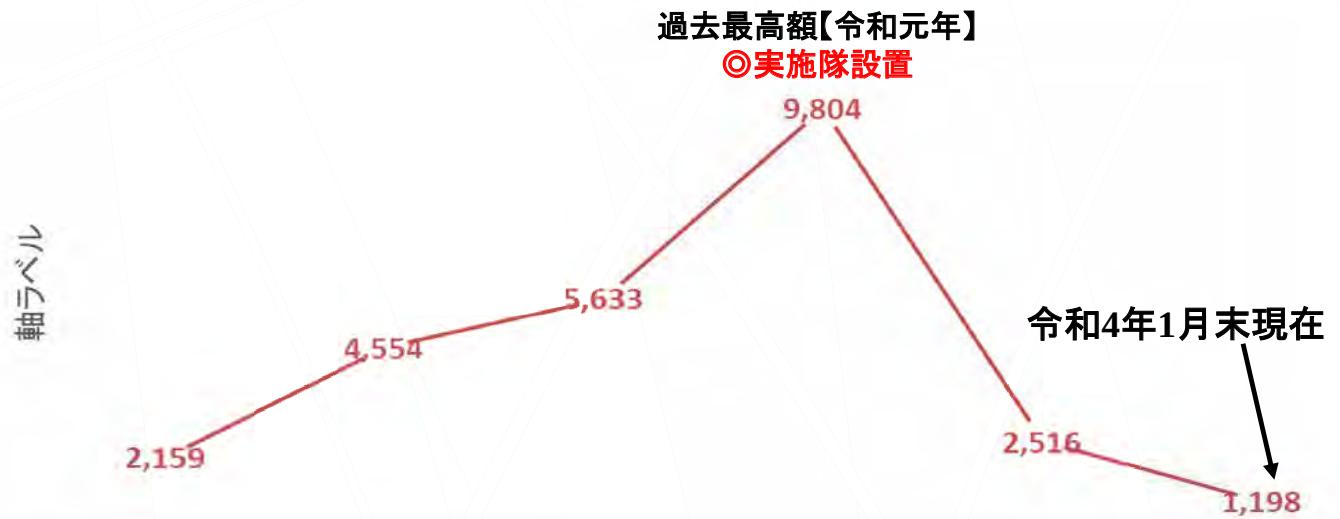
地域・実施隊員・行政・JAが連携し、アライグマ・ハクビシンによる被害が深刻な当地区で、小・中型獣集中捕獲を実施【80基】

山武市との行政界付近【2～3^キ□圏内で捕獲】にて、捕獲許可を得た従事者によりイノシシ捕獲を実施。【被害未然防止イノシシ捕獲対策】

※平成30年8月～令和4年1月末までで累計57頭捕獲

●富里市内の農作物被害額

被害額【千円】

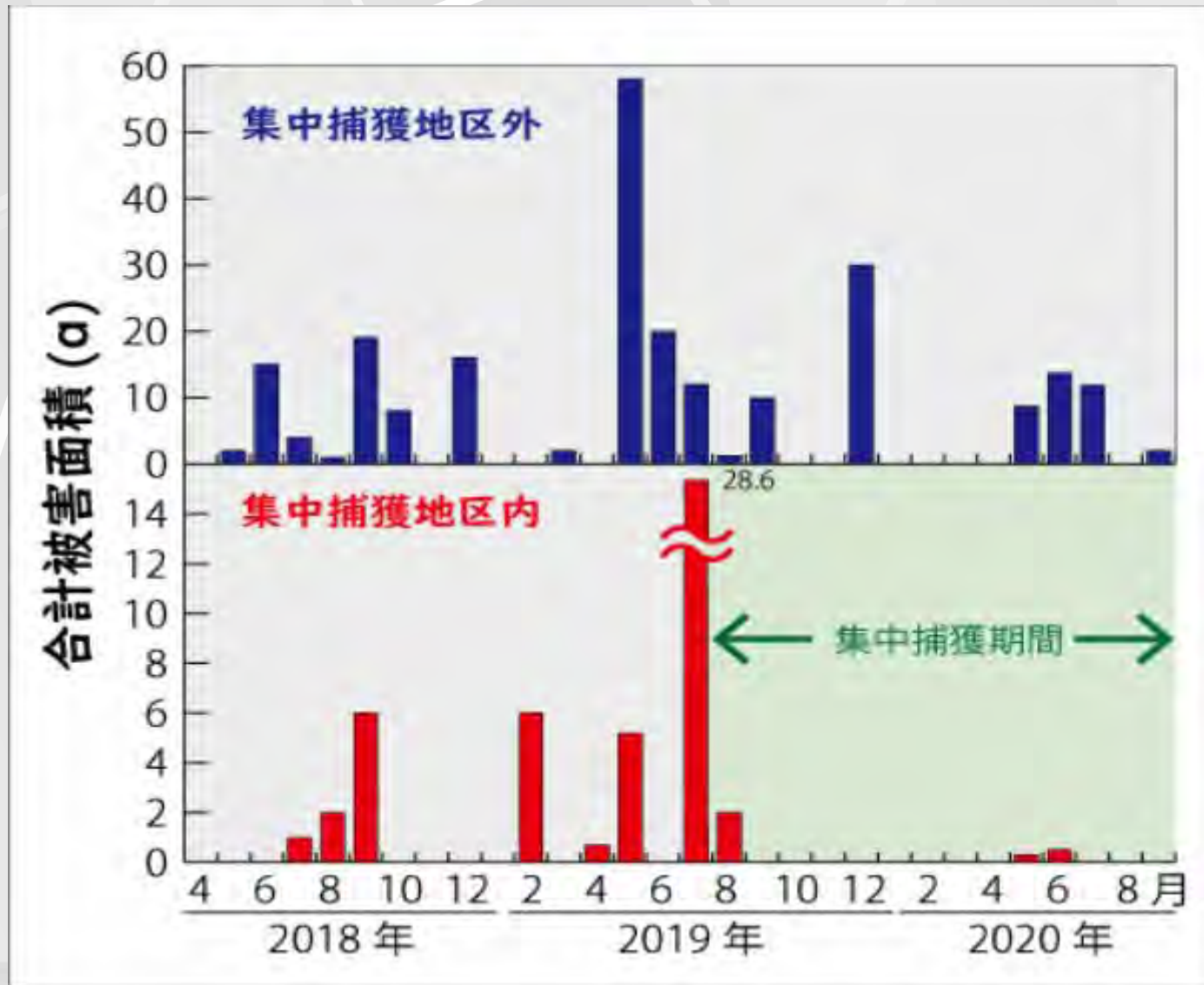


	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
被害額【千円】	2,159	4,554	5,633	9,804	2,516	1,198

●令和元年度において、市内の農作物被害金額は過去最高額を記録。その要因として、農業従事者の鳥獣害報告が増加したことや、実施隊員による詳細な調査により、今まで明らかになっていなかった被害実態が判明したことによる。

●令和4年1月末現在において、実施隊による総合的な鳥獣害対策の成果があらわれ、被害金額が大幅に減少している。

●十倉二区小・中型獣集中捕獲効果分析



組織運営等について

●農作物被害対策アドバイザー制度を活用し、(合)AMACとアドバイザー契約を結び、実施隊員スキルアップのための講習会、実地研修会並びに定期的な実施隊会議を実施。

ポイント①

猟友会所属隊員の知識やノウハウの伝授。

ポイント②

隊員間での情報共有。

※LINEグループ(隊員全員が参加できるグループを作成)
市内での被害状況や出没情報などを発信。

●組織、人、事業を動かすための心得

1.相手方がいる場合、同等かそれ以上の立場に自身がなければ物事は前に進まない。(知識・経験・意欲)

※知識がなければ学べばよい。経験がなければ、経験をつめるだけの場数を踏めばよい。まずは、何事にも挑戦してみる。意欲は、自身の意識しただけで変えられる。

2.沢山の人と会話をする事(信頼)

※農家廻りを積極的に行うことで、様々な話題や情報を得られ、獣害対策に限らず幅広い知識や人脈を作ることが出来る。自身が汗をかいた分だけ、信頼が得られる。

3.会合等への参加

※農家さんが行う、会合等へ積極的に参加する。2で意識したことの延長線として、より信頼を得ることに繋がる。

■出没写真【富里市十倉地区・旧洗心小学校付近】



午前10時30分頃

●資料①【イノシシ被害写真】



●資料②【アライグマ・ハクビシン被害写真】



●資料③【アライグマ・ハクビシン被害写真】



●資料④

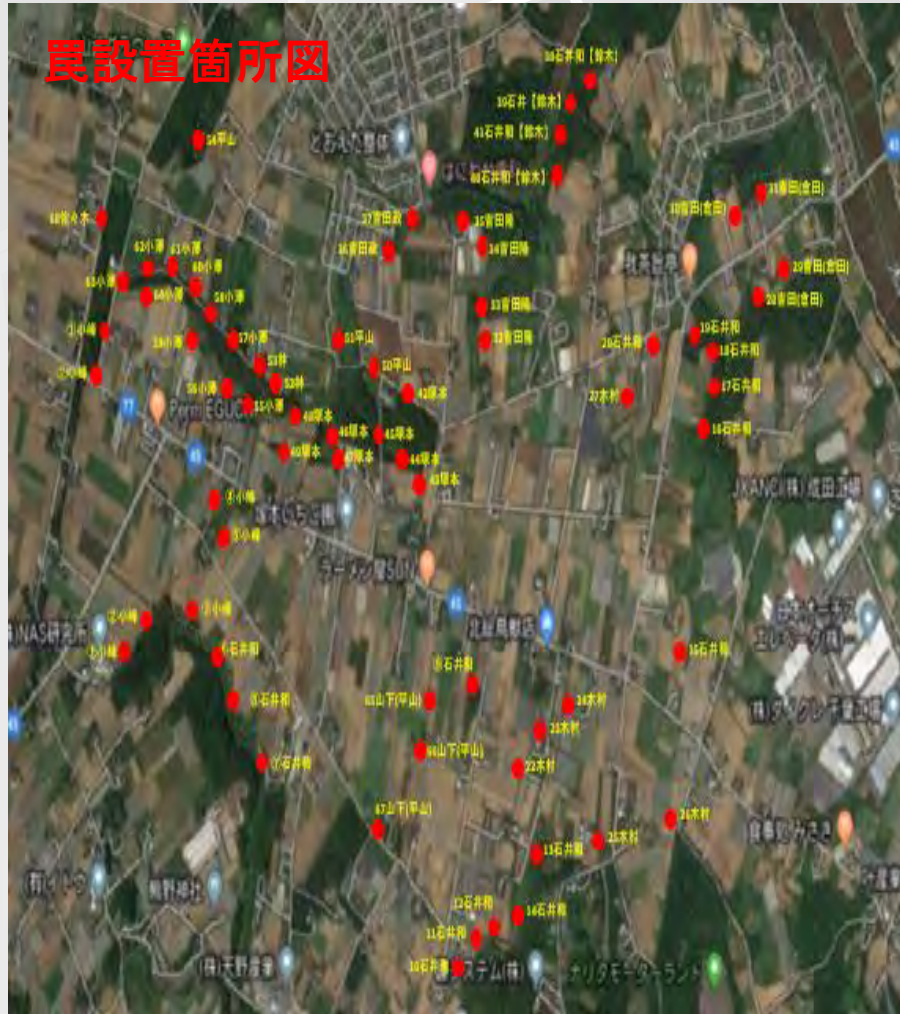
アライグマ爪痕



ハクビシン足跡



●資料⑤【地域ぐるみの対策】



●資料⑥【隊員による電気柵設置指導】



●資料⑦広域連携【被害未然防止イノシシ捕獲対策】



●資料⑧【集落環境診断会の様子】



JA富里市西部集荷場にて、集落環境診断会を行いました。当日は、52名の方が出席され、現地確認・生態・各地域の被害情報の共有など、地域ぐるみの対策へ向けての検討を行いました。

●資料⑨実施隊発足式【平成31年4月11日】



●資料⑩【JA富里市による資器材等の寄贈】



農業のために 地域のために 明日のために

JA 共済の
地域貢献活動

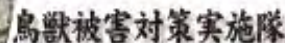
JA富里市より、ユニットハウス、小型箱罟、電気柵が寄贈されました。ユニットハウスは、隊員の詰所としての利用の他、イノシシ解体を行う重要な施設として利用されています。

※JA富里市広報に毎月、鳥獣害情報を掲載。組合員に対して周知するとともに、被害状況などの情報提供の呼びかけを行っています。



とみさと

2021
10
No. 890



地域は俺たちが守る

被害が深刻化してからでは遅

富里市鳥獸被害対策実施要綱

スエーデン産靴 小 25.5cm 26cm

Figure 1 consists of a bar chart and a table comparing the number of watermelons per hectare in the 2010 survey and the 2005 survey. The bar chart shows the number of watermelons per hectare for each survey year, with the 2010 survey showing a higher number of watermelons per hectare than the 2005 survey. The table provides the specific data for each survey year.

調査年度	1haあたりの果実数
2010年度	2,850個
2005年度	2,400個

事における実際の製作監督者側は、アラビヤによるものが最も多く、トウモロコシ、スイカ、落花生など、その能力が最も発揮される果物を受けています。イノシシによる被害は、一歩少ないのは、他の動物群での手探りによるため、まだイノシシが侵入し込んでいないと判断が定まっていなかったためです。定着してしまえば、距離の能力が最も得意なため、最も有害な動物が上にあつておなじみになつていくと大規模なものとなります。そのため、我々に入り込むべきようにするための果物の管理が不可欠です。

事業・業種	投資に注目	
	注目	投資時期
アライバマ	スイカ、販売状況	2019年4月 180.2
タカモト	トキロロ20、プア価格	11.906 4月 223.9
カラス	スイカ、販売状況	4.964 4月 103.2
カキ	トキロロ20、販売	5.20 4月 27.3
イノリ	販売状況	468 4月 15.3



Salmon Type	Price (¥)
First Type	2,150
Second Type	3,504
Third Type	4,625
Fourth Type	2,510



2021年10月

●資料⑬【野菜残渣に対する啓発チラシ】

・悪い例



・良い例



◎例①、例②とも、山際から離れた見晴らしのよい場所に、穴を掘ってまとめて処分し、土や蔓を被せています。実際に、耕作者にお話しを伺ったところ、山際から現在の場所に変更した所、獣害はかなり減ったとの回答が得られました。

●資料⑭【農業者向けマニュアル冊子(資料抜粋)】

悪天候時の 農業技術 と 鳥獣害対策 について

富里市農業指導連絡協議会

問合せ先

富里市役所 市民経済環境部 農政課	0476-93-4943
富里市農業協同組合 営農部 営農指導課	0476-93-5652
丸根町営農協同組合 販売部 生産指導課	0479-77-1240
千葉県 印旛農業事務所 改良普及課	043-483-1128

●被害防除について

被害を軽減するための方法として、電気柵の設置が有効となります。現在、電気柵の正しい設置方法について、富里市有害鳥獣被害防止対策協議会、富里市農業協同組合、富里市鳥獣被害対策実施隊が連携して指導を行っています。



●野菜残査について

放棄果樹・野菜残査・放棄農作物は、イノシシ、アライグマ、ハクビシン等の有害鳥獣にとって、栄養価の高い餌となるだけでなく、一度味を覚えた鳥獣は、より美味しい餌を求め、出荷前の畑の農作物に手を出します。そこで、放棄ではなく、穴を掘り埋め戻す、山林や耕作放棄された箇所から離れた所へまとめて置くなど、現在の状態から少しずつ改善することが、鳥獣害対策の一つの手段となります。

・悪い例



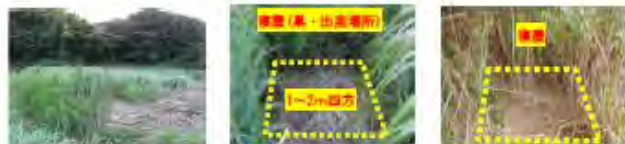
・良い例



◎例①、例②とも、山際から離れた見晴らしのよい場所に、穴を掘ってまとめて処分し、土や草を被せています。実際に、耕作者にお話しを伺ったところ、山際から現在の場所に変更した所、被害はかなり減ったとの回答が得られました。

●耕作放棄地について

耕作放棄地は、イノシシの棲家や出産場所となり、被害発生の原因となっています。草刈り等を行い見通し確保をすることが被害対策の一つの手段となるため、適正な管理をしていきましょう。



●カラス対策について

カラス対策については、銃器による捕獲・追払いの他、**テグス(黒色)**を張ることが有効とされています。トンネルなどには、一本のトンネルに対し、縦方向に直線にてテグスを張ると効果的と言われています。



◎獣害対策は、防災対策と同じ。自助・共助・公助の3つの連携により行うことがとても重要になります。**☆自助(農業者)・共助(地域ぐるみ)・公助(市・協議会・J A等)**。また、鳥獣害による被害対策を進めていくためにも、情報がとても重要になりますので、少ない被害でも情報提供をお願いします。なお、足跡など判別が出ない場合や、地区ごとの実施隊員紹介については、下記連絡先までご相談下さい。



お問合せ 富里市有害鳥獣被害防止対策協議会
(事務局：富里市農政課) ☎0476-93-4944
J A 富里市営農指導課 ☎0476-93-5652

●資料⑮ 新聞掲載記事

①読売新聞

農家団結 鳥獣対策隊

イノシシ阻止被害9割減

富里で活動成果

【富里市】富里市の一帯は、イノシシの被害が深刻化している。市は、農家の団結を促し、鳥獣対策隊を組織して、被害の軽減を図っている。活動成果として、イノシシの被害が9割減となった。また、イノシシの生息地を調査し、被害の発生を未然に防ぐための対策も進んでいる。

富里市は、イノシシの被害が深刻化している。市は、農家の団結を促し、鳥獣対策隊を組織して、被害の軽減を図っている。活動成果として、イノシシの被害が9割減となった。また、イノシシの生息地を調査し、被害の発生を未然に防ぐための対策も進んでいる。

富里市は、イノシシの被害が深刻化している。市は、農家の団結を促し、鳥獣対策隊を組織して、被害の軽減を図っている。活動成果として、イノシシの被害が9割減となった。また、イノシシの生息地を調査し、被害の発生を未然に防ぐための対策も進んでいる。

②東京新聞

鳥獣対策隊の活動成果

富里市は、イノシシの被害が深刻化している。市は、農家の団結を促し、鳥獣対策隊を組織して、被害の軽減を図っている。活動成果として、イノシシの被害が9割減となった。また、イノシシの生息地を調査し、被害の発生を未然に防ぐための対策も進んでいる。



鳥獣対策隊の活動成果として、イノシシの被害が9割減となった。また、イノシシの生息地を調査し、被害の発生を未然に防ぐための対策も進んでいる。

富里市は、イノシシの被害が深刻化している。市は、農家の団結を促し、鳥獣対策隊を組織して、被害の軽減を図っている。活動成果として、イノシシの被害が9割減となった。また、イノシシの生息地を調査し、被害の発生を未然に防ぐための対策も進んでいる。

●資料①⑥【隊員統一のユニフォーム等】



●資料⑰【視察受入・講師依頼実績】

○視察受入

令和2年7月6日 アライグマ・ハクビシン対策現地視察
千葉県環境生活部自然保護課

○講師依頼【富里市有害鳥獣被害防止対策協議会事務局：経済環境部農政課 金親佑樹】

テーマ：防災意識を基盤とした実施隊運営と体制づくり

令和2年10月13日 令和2年度印旛地域野生鳥獣対策連絡会議

令和2年12月 1日 令和2年度野生鳥獣管理指導者研修会

令和2年12月 9日 令和2年度山武地域野生鳥獣対策会議

令和3年 5月25日 ナイスポーク千葉推進協議会

その他：JA富里市青年部、養豚部会、富里市農業士会、富里市農業連絡協議会他

今後の方針等について



第2捕獲部隊長				
	東部支部	西部支部	南部支部	北部支部
必要数	30	26	27	17
農免許所持者数				
第1捕獲部隊（農）	0	1	2	2
第2捕獲部隊（農）	7	17	18	3
配置計画（不足数）※	第2捕獲部隊を優先的に増員し、順次、第1部隊への兼務を促進する。			
第2捕獲部隊	23	8	7	12
合計				

●農協の集荷場を基準とし、4支部に分け実施隊員を配置する。【富里市隊員配置計画】

●現在、南部地域においては、隊員の配置並びに地域ぐるみの活動が盛んに行われているが、他地区においても同様の活動が行えるよう支援していく。

●まとめ

- ①防災対策を鳥獣害対策におきかえて、対策を推進していく。
- ②被害が深刻になる前に、スピード感を持って対応にあたる意識。

◎実施隊運営で意識していること

楽しく被害対策にあたることをモットーに、20代～70代までの農業従事者が鳥獣害対策を通して互いに協力し合い交流する中で、世代を超えた連携が生まれ、富里市農業全体の底上げになることを意識している。

◎行政として意識していること

「被害(問題)が深刻化してから対処しては遅いという意識が、鳥獣害対策を含め、地域が抱える様々な問題に対して持つべき重要な要素である」ということを常に意識しています。

★富里市の鳥獣被害対策に関する経過等、詳細につきましては、農林水産省HP、令和元年度鳥獣被害対策基盤支援事業における、新たな被害防止対策手法に関する調査事例にて紹介されておりますので、当資料とあわせてご覧いただければ幸いです。